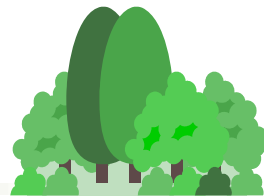


# かわらばん 第2号



## ～第2回豊間地区防災緑地ワークショップが開催されました～

平成 25 年 5 月 18 日(土)に「豊間地区防災緑地ワークショップ」が豊間公民館にて開催され、豊間地区の住民 18 名の方が出席されました。

今回のテーマは「防災緑地のイメージを考えよう」(使い方などについて)でした。4つのグループに分かれ、「緑地をこんな風に使いたい、こんな施設がほしい」といった内容について、意見交換しました。

ワークショップは、豊間支援・東京専門家グループに支援していただきました。

### ワークショップ全4回の流れ

- 第1回ワークショップ (4月20日(土))  
防災緑地を知ろう
- 第2回ワークショップ (5月18日(土))  
防災緑地のイメージを考えよう(使い方などについて)
- 第3回ワークショップ (6月9日(日))  
防災緑地のイメージを考えよう(植生などについて)
- 第4回ワークショップ (6月30日(日))  
まとめ/計画内容と今後の取り組みについて

### 第2回 豊間地区防災緑地ワークショップ プログラム

- はじめに
  - 開会挨拶
  - スタッフ紹介
- 前回の意見と今回のポイント
  - 本日の予定
  - 前回の意見と今回のポイント
- グループディスカッション
  - 参加者の自己紹介
  - 話し合い 使い方、欲しい機能や施設、配置など
  - 中間発表
  - 話し合い 中間発表を受けて、具体的に
  - 発表
- おわりに
  - まとめ
  - 次回までの宿題(欲しい樹種や植栽方法、配置)
  - 次回の予定
  - 閉会の挨拶

## 前回の意見と今回のポイント

前回のワークショップでは、防災緑地について思うことや、緑地のイメージを話し合いました。「高い、圧迫感を緩和してほしい」、「海を感じられる工夫がほしい」、「バリアフリーやユニバーサルデザインが必要」、「人を呼び込むためには、駐車場が必要」といった意見が多く挙がりました。

今回は、このイメージをふくらませ、防災緑地をどう使うか、どんな施設がどこにいくつ欲しいか、誰が使うのか、どのような形状のものが良いか、など、より具体的に考えてディスカッションしました。



防災緑地の模型、イメージパース、平面図

## グループディスカッション（参加者から出された主な意見）



A  
班

### まずは住民のための防災緑地に

- ・ 日常生活に密着した場所、海を眺められる場所に、防災緑地から海側に降りる階段がほしい。緩やかな円形の階段が良い。
- ・ 二見ヶ浦の岩の間の日の出を見ることのできるポイントに階段がほしい。被災前にあった海側の階段もその位置だった。
- ・ 塩屋崎灯台が見えるポイントにも、海側の階段がほしい。
- ・ 階段は、避難路とつながる位置が望ましいのではないかな。

### 街を訪れる人により楽しんでもらえるようにするために

- ・ 水場、トイレ、コインパーキングは有料にできればいいに使ってもらおう。
- ・ 防災緑地に健康ロード（散策路+サイクリングロード）を設ける。
- ・ 管理用通路をサイクリングロードにする。
- ・ レンタサイクル（有料）も可能にしたい。

### 祭りや伝統行事を継承していくために

- ・ お潮採りの場所へのアクセスを確保したい。

### 諏訪川左岸河口部付近を地域の拠点に

- ・ 諏訪川左岸河口部に面するエリアに道の駅やレンタサイクルの拠点を設けてはどうか。
- ・ 防災緑地の平場は、多目的広場、防災広場、復興記念イベントのできる場所にしたい。
- ・ 諏訪川は鎮魂の場にしたい。



B  
班

### 街を訪れる人により楽しんでもらえるようにするために

- ・ 二見ヶ浦や海水浴場など、人が集まる場所（スペース）と道（ルート）と駐車場が必要。
- ・ 諏訪川河口部分は、二見ヶ浦と塩屋崎灯台の両方が見える良い場所なので、ここに架かる橋のデザインも大切。展望広場と道の駅もここが良い。
- ・ サイン計画が大切。サイクリングやウォーキングのコースがわかるようにする。

### つながりを大切に

- ・ 区画整理地区と防災緑地のつながり。区画整理側に駐車場とトイレを整備し、区画整理の公園と防災緑地を一体的に整備するなど。
- ・ 防災緑地の平場は、歩道としてつなげる。幹線道路も活用し、サイクリングロードもつながると良い。
- ・ 堤防から砂浜への降り口も、それぞれのつながりを切らないようにする。

- ・ 防災緑地と住宅地とのつながりも大切。

### 祭りや伝統行事を継承していくために

- ・ お潮採りの場所は4箇所、北から大國魂神社、八幡様、稲荷神社、諏訪神社。海へのアクセスはこの4箇所が基本。

### 安全と安心

- ・ 海が恐ろしくないように造る。子どもを連れて安心して歩けるように。
- ・ 安全なところだとアピールする。

### 防災緑地の管理

- ・ 管理サポーターを募集する。
- ・ 豊間のシルバー人材センターを立ち上げよう。



## 海と陸との関係を大切に

### お潮採り

- ・ お潮採りのため、御神輿が安全に海へアクセスできる階段またはスロープが4箇所必要。そのうち最も重要なポイントは霊通り。
- ・ 御神輿は1度に2台。1台につき30人ほどなので、合計50~60人が通る。

### 駐車場

- ・ 豊間の2箇所の海水浴場のそばと、宿の集まる地区のそばの合計3箇所に駐車場がほしい。

### 階段、スロープ

- ・ 堤防につける階段は、堤防と一体となり（堤防の側面に沿う）かつ、勾配が緩やかなものを希望する。

## 道路と施設を一体に考える

- ・ 駐車場のそばにトイレとシャワーを。海水浴客の利便性が高くなり、集客効果がある。
- ・ 諏訪川河口に広場を設けて、そこに避難所を兼ねた展望台がほしい。
- ・ 緑地内道路をウォーキングロードに、管理用道路をサイクリングロードにする。
- ・ ウォーキングロードの路面には、歩きやすい素材（チップなど）を使う。
- ・ 諏訪川に橋を架けて管理用道路をつなげ、サイクリングロードとして使えるようにする。
- ・ 緑地の中にキャンプ場を設置する必要はないだろう（キャンプは海岸で行うから）。



## 街を訪れる人により楽しんでもらえるようにするために

### 必要な施設

- ・ 海水浴客やサーファーの利用、日常的な利用、バリアフリーなど多目的な利用を考えて、海岸へ降りる施設（階段やスロープ）が必要。海水浴場からの避難のしやすさも重要。
- ・ 駐車場は、豊間地区の南北と中央部の3箇所はほしい。

### 誘客に向けてのアイデア

- ・ クルーズやヘリでの遊覧飛行を企画するなどして、小名浜から誘客してはどうか。
- ・ サーファーの意見を取り込む場が欲しい。
- ・ レジャーの屋内化に対応して、屋内人工壁でクライミングを楽しめる施設はどうか。
- ・ 緑地の地下に駐車場やアトリエなどをつくり、災害時に避難所としてはどうか。

## 祭りや伝統行事を継承していくために

- ・ お潮採りのために、御神輿を担いだ20人程度が砂浜へのアクセスできる階段・スロープが必要。

## 海と砂浜の魅力をより高めるために

- ・ 植栽は、ハマナスやシバザクラなど、色彩が楽しめるものが良い。
- ・ 海砂利を活用したものを作ることはできないか。
- ・ かつて海岸・海岸林だったところが住宅となり、砂浜が狭くなってきている。台風時などに波が家に入ってくるようになった。砂浜を取り戻したい。



## 多かった意見



### お潮採りの継承

- お潮採りの場所では、御神輿が砂浜へアクセスする階段・スロープが必要。

### 住む人のために

- 海と陸とのつながりが大切。日常生活に密着した場所に階段を。

### 街を訪れる人のために

- 海水浴客やサーファーが使える駐車場、トイレ、シャワーが複数ほしい。
- 避難のしやすさも考えた位置に、砂浜へのアクセス路（階段・スロープ）を設けることも必要。
- 防災緑地内に、散策路やサイクリングロードを設けては。

### 諏訪川河口エリアの活用

- 諏訪川河口に、地域の拠点施設（展望台や道の駅、レンタサイクル拠点など）を設けてはどうか。



## 次回のお知らせ！

第3回ワークショップ 6月9日(土) 13時半～16時 場所:豊間公民館  
テーマ:「防災緑地のイメージを考えよう」(植生などについて)  
防災緑地の樹種や植栽方法、配置について意見交換します！

### 次回までの宿題

**防災緑地に必要な樹種や植栽方法、配置等について考えてきてください。**

### 参考

- ～第1回ワークショップで出た意見など～
- ・実のなるもの、採って食べられるものがいい
- ・海岸全域にあったハマナスを広げる
- ・豊間の山のDNAを繋げる(蓑茂先生のお話)

## お問い合わせ先

主催 福島県いわき建設事務所

問合せ 担当:緑川、兵藤

連絡先:0246-35-6075

